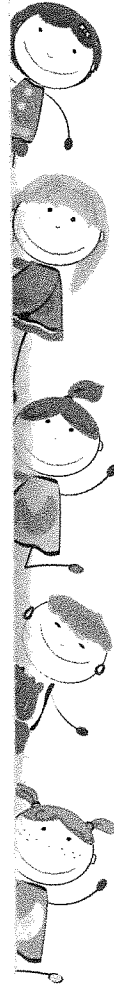


子どもたちの 将来を守る 「いのちの授業」

長尾クリニック院長
長尾和宏さん

「15歳の背中が、 私にいろんなことを 教えてくれる」



△取材文／上村悦子



「子どもたちの健康格差を見て、今の点で治すことが医者の仕事だと思ひした」と話す長尾和宏医師。

「子どもたちにこそ『健康』教育を」と提唱する医師がいます。長尾クリニック（尼崎市）の長尾和宏医師がその人。校医として健康診断に訪れたある県立高校で、一部の子どもたちの健康格差を目の当たりにし、「子どもたちのライフスタイルを是正していかなければ」と痛感したのです。それから10数年、年に数回の「いのちの授業」は今も続いています。

尼崎市医師会では、全員校医制により全医師が各地域の幼稚園、小・中・高校の校医になる仕組みになっています。

「開業して5、6年のころです。たまたま私が受け持った高校で、新入生の健康診断に行つて驚きました。まず触診して、胸と背中に聴診器をあてるんですが、肥満の子が多かった。小児のメタボの基準をはるかに超える肥満です。さらに驚かされたのが子どもたちの背中です。一部の子ですが、重症のアトピーで肌がブツブツ、ザラザラになっていました」

「15歳の背中」は、さまざまな問題を抱えていて、いくつもの病気が透けて見えたとはいふ長尾医師。背中は子どもたちの

「栄養状態の鏡」なのです。

「そして、タバコです。健診なのにタバコくさい子もいて、聞いてみると学校で喫煙している子もいる。また、背中で左右に曲がる『脊柱（せきちゅう）側わん症』の子も多かった。生活の中で座り方や歩き方の教育を受けておらず、悪い姿勢のまま食べたり、話したりが習慣になってしまっているんです」

さらに、俗にいう「うんこ座り」がでない子も。歩行力やスクワット力が極端に低下しているそうです。長尾医師は当時を振り返り、「パツと見ただけで病名が浮かぶような子がたくさんいた」と話します。健康でハツラツとしたイメージの高校生とはかけ離れた現実でした。

「女の子の多くは、カラーコンタクトを入れていました。使用頻度に応じて交換が必要なものも、お金がないので1か月ぐらい使用して角膜障害を起こしている。本来なら医師の処方が必要ですが、安いインターネット販売などの粗悪品を使用しているんです。目が悪くなってからでは余計に医療費がかかってしまいます」

「この子らを

どうにかしなあかん！」

「私は現状を見て、どうにかしなければとショックでした。将来、寝たきりになつて、在宅医療を受けざるを得ない子が出てくるのではないかと。彼らは、いわば大人の被害者。経済格差がそのまま健康につながっている。それを断ち切つてあげたい、間違つたライフスタイルを是正してあげたいと思ひました」

実は、尼崎市は「がん訂正死亡率（年齢構成の差を取り除いた死亡率）」が、全国1724市町村の中でワーストワン。がんで死ぬ人がいちばん多い市ということになります。しかも、メタボの有病率も兵庫県下で尼崎市がナンバーワンだそう。「今は2人に1人ががんになる時代だから、子どものうちからがんの予防授業が必要だ。『健康』という科目の授業です。病気になった時にどうすればいいかとか、保険証の使い方や医者のかかり方がわからないと、いくら社会保障制度が充実しても何にもならない。子どものうちから教えていかないとダメなんです」

教育に原因があると思つた長尾医師は、校長先生に、「健康の授業をさせてほしい」と提案。「公立高校で教えるには資格が必要でしょうから、ボランティアで『いのちの授業』をさせてください」と願ひ出たのです。

「校医というのは、年に1回の健康診断だけして終わりじゃない。子どもたちの健康を守つて、元気にするのが校医です。だから『いのちの授業』をして当たり前という意識がある。一つは校医がボランティアで授業をするというモデルづくりをしたいという気持ちもありました」

次号では、「いのちの授業」の詳しい内容を長尾医師にお聞きします。
（次号に続く）

■長尾和宏（ながおかずひろ）さん

1958年香川県生まれ。東京医科大学卒業後、大阪大学第二内科入局。1995年尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療をめざす。医学博士。日本慢性期医療協会理事。日本尊厳死協会副理事長。日本ホスピス在宅ケア研究会理事など。近著に『糖尿病と脾臓がん』『男の孤独死』『痛い在宅医療』。ブックマン社など多数。

ステーション

co-op

4

2019 APRIL

本体 205円+税

わたしの町の 満開の桜!

特集

桜につつまれて、春らんまん。

今年おすすすめの桜の楽しみ方と、
立ち寄りたいたいお店にもご案内。

明るい日差しに誘われて。

春カフェ日和。

ーテニング、スポンジケーキ、ヨーガや金継ぎなど、

春から、楽しいコト、始めよう!

http://station.kobe.coop/

ご意見・ご感想をお寄せください 受付●月～金曜 10:00～17:00
編集室直通ダイヤル ☎078・842・363